

次期「香川県防災情報システム」検討委員会（第2回）議事録

- ・日時 令和6年7月31日（金）13:30～15:30
- ・場所 香川県庁本館5階災害対策本部室
- ・会議概要

1. 開会	
開会挨拶	
2. 委員長挨拶	
委員長挨拶： <p>前回の委員会では、貴重な意見をいただいた。前回の意見を受けて、次期システムの更新を検討しており、これについて本日皆さんに意見を伺う。R3年度全国知事会において、「防災におけるDXの推進に向けた取組報告書」が公開されている。今回の資料とオーバーラップするところが多くある。全国どこでも同じような悩みを持っていることが分かる。</p>	
3. 会議の公開・非公開の決定	
原則公開とする	
4. 議題	
次期「香川県防災情報システム」の整備について	
事務局	（資料2，次期「香川県防災情報システム」の整備について） ・資料内容の説明
委員	先ほどの説明に対して、意見をいただきたい。
委員	ポイント①気象庁キキクルとの連携について、具体的にどうするのかを示して欲しい。ハザードマップと重ね合わせて表示させるとの説明があるが、それがどのようなイメージとなるか示して欲しい。
事務局	県ではハザード情報以外に、避難所の開設情報等も持っているの、それらも重ね合わせて表示し、適切な避難行動が取れる情報を提供する。
委員	その重ね合わせは、住民が自分でやるのか、難しくないのか。
事務局	地図の中にいろいろ選べる欄（レイヤー）がある。それらの情報を切り替えて表示することができる。
委員	東京都では、ユーチューブチャンネルを開設して、防災情報等をユーチューブで配信している。それらの方法が分かりやすいのではないかと。個人でやれというのは、難しいのではないかと。個人対応は、ユーチューブで配信してくれる方が良いと思う。
委員	県が実施している防災関係のリーダー研修で操作方法の研修をやってもらうのが良いのではないかと。
委員	おっしゃった話はよくわかる。機能としてはあるが、操作が難しいので、平常時からユーチューブで操作説明をするなどの使う側にとって、わかりやすいことが必要と考える。
委員	どういう効果を期待してシステムを作るのかを明確にする必要がある。例

	<p>例えば、避難行動にも、避難すべきかどうかの判断、どこに避難すべきか、どのルートで避難するか等の3段階ある。システムは、どの場面での利用を想定しているのか。</p>
事務局	<p>避難情報が発令された際に、自宅がどのような危険な状態にあるかを認識してもらい、避難行動に結びつけてもらうことを期待している。</p>
委員	<p>住民への避難情報は、LINE やメール等で届くと思うが、その後このシステムを見てどう判断するのか。</p>
事務局	<p>避難情報で示された対象河川の浸水の想定エリアを確認するために見ていただく。</p>
委員	<p>今逃げれば大丈夫といった情報になるのか。また、逆に水位が上がってきたら逃げない方が良いとの判断になるのか。</p>
事務局	<p>そのとおりです。</p>
委員	<p>どのルートを通って避難するかは、別のアプリのルート検索で判断する。このページは、避難すべきか判断するためにあると考える。</p>
委員	<p>開設した避難所と未開設の避難所が分かると思う。市民に説明担当としてお聞きしますが、香川県防災アプリでも、キキクルの情報を把握できると考えて良いか。</p>
事務局	<p>可能であれば、防災アプリでもキキクルの危険度情報を確認できるようにしたいと考えている。</p>
委員	<p>自分の位置情報と合わせて、危険度を把握することができれば、非常に役立つアプリになると思う。</p>
委員	<p>住民が、避難時にどの画面をどういう順番で見て判断するか等のフローチャートを検討して欲しい。今はできないが、キキクルを入れることにより、この判断が効率化するなどが分かるような説明が欲しい。</p>
委員	<p>フローチャートも有効だが、それを進化させてユーチューブで事例毎に日頃から紹介するようなことを検討して欲しい。ポイント⑨、⑩に分かりやすい情報提供の項目がある。そこで、また議論して頂きたい。</p>
委員	<p>ポイント②被害調査機能の整備の話に進みたい。私はこの機能は非常に重要と考える。熊本地震の調査での私の経験では、被災証明の発行で、長蛇の列ができていた。行政の効率化も重要だが、住民へのメリットも重要である。その点はどうか。</p>
事務局	<p>検討中のシステムは、住民からの申請後の業務をサポートするものである。申請の部分は網羅していない。今後検討する。</p>
委員	<p>能登半島地震では、現場での調査は、当初は紙台帳に記載していた。途中からモバイルパソコンが用意され、現場での入力情報が瞬時に市役所に入ってきて、すぐに罹災証明が出せるようになった。このような取り組みは、かなり注目されている。まずはそこを目指している。最終的には、住民に利益があることを想定している。今すぐの実現できるかは難しいが、そういうとこ</p>

	ろを目指したい。
委員	システム開発の際に、そういった視点を入れていただければ、次の更新に繋がると思う。申請の効率化については、東京都、茨城県、大分県、佐賀県など災害があったところでは、タブレットで、民間が開発したアプリを活用して実施している事例がある。香川県でも、それらを参考にして欲しい。
委員	先ほどの話だが、現行システムでは、申請において住民が市役所の往復に時間がかかるのが問題であり、システム更新により、先に写真を登録しておけば審査が進められ、後日証明書を受領できるなどの効率化を図ることができるという理解で良いか。
委員	究極目指すところは、そうである。
委員	ポイント③市町システムとの連携、これは非常に重要である。高松市ではどうか。
委員	この件について、高松市でシステム開発を担当するデジタル社会基盤整備室と先日行われた検討会で議論した内容について協議した。ご提案の方法で上手く行くのではないかと考えている。
委員	市町がどのようなシステムを持っていて、どの程度二重入力が解消されるかを今後調査する予定である。
委員	大分県の例であるが、県と市が共同で運用するシステムと紹介されている。このような共同運用システムを進めることも必要ではないか。
委員	県に市町のシステムを集約することについての意見であるが、市町の境界に住んでいる住民にとって本システムは重要ではないか。
委員	市町の境界に住んでいる住民や、自宅と職場の市町が異なる場合など、他の市町の情報を県がまとめて出すことは有用である。
委員	県の防災ポータルから高松市や丸亀市が情報を運用することについて、RPAで情報を参照しているなどの詳細を把握しているか。
事務局	現在調査中である。
委員	情報連携について、県が各市町に集めるのではなく、統一仕様とすれば良いのでは。
委員	市町との情報連携については他府県の事例を参照すべきである。
委員	ポイント④多言語化についてはどうか。県内でも、国ごとにグループが出来ているのではないかと思うので、各グループへどのように情報提供するのが良いかを考えていく必要がある。観光客についての情報提供についても考えていく必要がある。
委員	次のポイント⑤平常時利用の話はどうか。ジュニア、シニアモードについては良いアイデアである。
委員	7月から香川県公式防災 LINE アカウントに友達登録し、防災活動等を行い指定の URL にアクセスするとポイントが貯まり防災グッズと交換できるよ

	うな取り組みを実施している。どうやって、多くの方に関心を持ってもらうかの取り組みを行っている。防災アプリを、いかにダウンロードしてもらうか試行錯誤している。
委員	コロナの時に、アプリを入れないと施設に入れないなどの取り組みがあった。そのような工夫が必要である。平常時利用は重要である。
委員	ポイント⑥SNS・AI 分析サービスの導入の話に移りたい。これは、各県で取り組まれている。どういったものか説明して欲しい。また、これはどのようなことに役立つのか。
事務局	現在サービスとして、スペクティ社や JX 通信社などのサービスがある。まずは、何かが発生しているという情報を確知する。その後、各市町に確認を依頼するなどの利用を想定している。また、これを利用して捕捉情報を取得することも想定している。
委員	群馬県で、スペクティ社の無料トライアルを実施中である。参考にしたらどうか。
事務局	香川県でもトライアル中である。
委員	私もスペクティを利用している。良い仕組みだと思う。活用して欲しい。
委員	ポイント⑦番目、電力データとの連携。これについて、どんな利用イメージをしているか。何時間後くらいに復旧するのかの情報があればありがたい。
事務局	このサービスは始まったばかりで、活用方法を検討中である。スマートメータの普及により、このようなデータを活用できるようになった。
委員	企業の BCP にも役立つのではないか。多くの電力を使う企業では役立つのではないか。これは、他県でも導入事例が少ないので、活用方法の検討が重要となる。
委員	ポイント⑧内閣府新総合防災情報システムとの連携について、詳細説明をお願いする。
事務局	このシステムは、情報を収集するに特化したシステムである。防災に関する情報をここに集めていくものである。従来ある SIP4D の情報を含めて、全国の防災情報を集約するものである。
委員	あらゆる防災情報の収集・共有というものはイメージしにくい。もう少し具体的に説明して欲しい。
委員	このシステムに連携することの県のメリットを整理してほしい。
委員	関係の目的を整理しないといけない。システムはどんどん複雑になる。
委員	ポイント⑨発令情報の地図データでの提供について、ご意見をいただきたい。発令情報が地図データで提供されるというのは意味がある。キキクルとの連携についても関係するのではないか。
委員	先日、山形で洪水氾濫が生じた。氾濫の発生は早い。いかに早く情報提供できるかが重要である。

委員	私は、警報音の鳴らし方に問題と考えている。警報には、大雨洪水、河川氾濫、土砂災害があるが、各災害は危険域に達するのに時間差がある。警報音は同じでその違いが区別できない。また、鳴らし方が地域によっても違いがある。統一する必要がある。
委員	子供のころは、消防団が鐘を鳴らした。鳴らし方で、危険度がわかり、臨場感があった。警報でも、そのような工夫が必要ではないか。
委員	ほんとに避難が必要な時に、みんなスマホ等を見ないと思う。そのような場合にどのように対応するかが重要である。
委員	以前、国の方から言われたことだが、システムの情報配信よりも、その場のリーダーのとっさの判断が人の生死にかかわる。判断は、その場に応じて行われるべき。
委員	訓練には、ユーチューブが有効と思われる。工夫が必要である。新しいシステムを用いた訓練は、ユーチューブ等の活用・工夫が必要である。
委員	ポイント⑩わかりやすい防災情報提供についてどうか。
委員	気象庁の防災気象情報の提供方法の変更については、6/18 に検討会があり、改善方針が決まった。令和 8 年度の出水期に対応すべく各種対応が現在動いている。7/18 に改善に向けた様々な電文の改善案を気象庁から都道府県へ連絡した。明日、气象台から県へ詳しく説明することになっている。
委員	新しい情報提供は、各種災害の情報が同じ警報レベルとして配信される。各種警報レベルの情報が時間差でくることが想定されるが、そのあたりはどうか。従来の情報提供と何が違うか。
委員	気象警報の出し方としては、基準に基づいてこれまでどおり発表する。従来の発表は、災害の種類ごとに危険度レベルが分かりにくいなどの混乱があったので、今回そのあたりを整理し、各災害の危険度レベルの統一を図り、レベルに応じた行動を促すことを目指して改良した。避難行動の判断に関して、住民へ伝わりやすいことを目指して変更した。
委員	キキクルは、洪水、土砂、浸水の3つがある。まず洪水警報が出た、その何時間後に土砂の警報が出た、そのような予測は出せないか。危険度は時系列で変わっていく。複数災害に対する予測が無いと、住民は分かりにくいのではないか。
委員	土砂の話でいうと、レベル3から4の予測情報がすぐに出せるのか。検討したい。
委員	土砂の予測は出せないのか。
委員	土砂の予測の提供方法については、検討している。
委員	分かりやすい情報提供を期待する。
委員	キキクルには、洪水、浸水、土砂の3つがある。これらが、雨の降り方により、それらの情報が順次出るような流れとなると考えられる。

委員	以前にくらべて、現在は気象庁の予報も成果になった。いずれは、キキクルの危険度情報も精度が高くなることが期待できる。
委員	ポイント⑩番目対策本部の機能強化について詳細説明をお願いしたい。
委員	ここでは、県の災害対策本部の効率化について紹介しているが、これが、最終的に、住民向け業務の効率化につながると考える。
委員	宮城県の総合防災情報システム（MIDORI）では、クロノロジーのシステムを構築しており、有効であると思われる。
委員	ホワイトボードの利用が重要なのか。現在は、マイクロソフトの Teams 等のソフトもある。様々な情報を投稿して共有可能である。それらを市町との情報共有に活用するのはどうか。比較検討されたらどうか。
委員	現在は、訓練をしている際に、システムのクロノロに入力した情報をホワイトボードに転記している。Teams などの利用も検討したい。
委員	本日は、提案項目①～⑩について、委員の皆さんの意見を受けた。最後に、全体をとおして委員から一言ずつお願いしたい。
委員	システムがどんどん高度化する中で、住民がついていけなくなることを懸念している。シニア・ジュニア向けの検討を依頼する。
委員	利用者のターゲットを決めて検討することが重要である。
委員	2点ある。被災調査について、ドローン調査の実用化を期待する。珠洲市への派遣職員によると、ドローンの活用は非常に重要である。また、香川防災アプリの活用が非常に重要である。アプリのアピールを期待する。
委員	緊急時の情報提供はプッシュ型で送ることが重要である。同時に現地が必要とされている情報についてもこちらから聞くような仕組みが重要と考える。
委員	2点ある。電力情報の可視化は価値がある。現在の状況把握は重要である。自分自身が災害にあった経験がない。被災経験が無いため防災システムの設計が難しい。ユーチューブなどで利用シーンをアピールするのが良いと考える。
委員	防災気象情報の発信者としての立場で申し上げる。防災情報の体系整理ということで、システムに活用できるように取り組みたい。
委員	貴重な意見をありがとうございます。我々は、現在どんな仕組みを入れたらどうかを検討しているが、これらは最終的に住民にどのように届くかに留意して検討を進めたい。
委員	本日の議論はこれで終了する。 本日の委員会はこれで終了する。進行を事務局へお返すする。
5. 閉会	
事務局	今後のスケジュールについては、県や市町の意見を取り込み、今年度基本設計を行う、来年度詳細設計行い、R8年度に新システムの利用を開始する予定である。